

# 災害廃棄物発生量の推計方法

- 実態に即して自ら災害廃棄物の発生見込み量を推計している市町村については当該市町村推計量を採用。
- 他市町村については、災害廃棄物対策推進検討会における有識者の議論を経て定められた**災害廃棄物対策指針**に基づき推計。**建物被害棟数**<sup>※1</sup>に**能登半島地震の被害棟数の変動実績**を考慮、同指針による**解体率**に過去の**災害の解体実績**を考慮し**複数パターンを推計**、同指針による**発生量原単位**を乗じて算出。

※ 1 : 防災科学技術研究所が提供する「防災クロスビュー」による

## 災害廃棄物対策指針に基づく災害廃棄物発生量の推計方法（概要）

平時

災害廃棄物対策推進検討会  
技術・システム検討WG



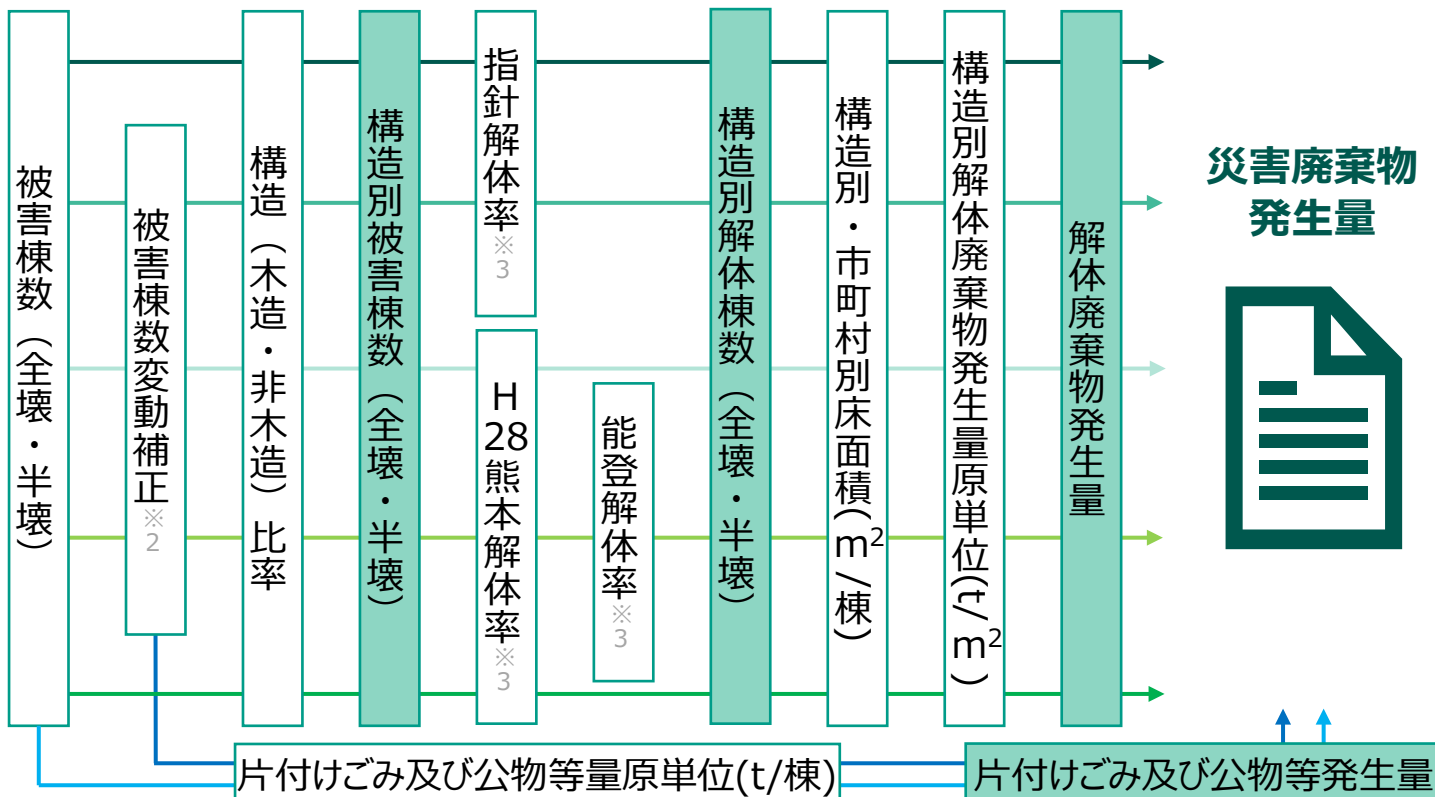
災害廃棄物対策指針の策定  
原単位・統計値の更新 等

推計方法の継続的改善



被害棟数把握方法の見直し 等

発災時



※ 2 : 令和 6 年能登半島地震の被害棟数の実績に基づき、被害棟数の推計から全壊90%、半壊151%に補正

※ 3 : ①災害廃棄物対策指針に基づく解体率は全壊75%、半壊25%、②平成28年熊本地震の解体率実績は全壊75%、半壊28% ③令和 6 年能登半島地震の石川県の解体実績は全壊79%、半壊65%

# 令和8年熊本地震による災害廃棄物の推計発生量

- 実態に即して自ら災害廃棄物の発生見込み量を推計している市町村については当該市町村推計量を採用。
- 他市町村については、災害廃棄物対策推進検討会における有識者の議論を経て定められた**災害廃棄物対策指針**に基づき、過去の災害の実績を踏まえた補正等を行い推計。

## 災害廃棄物発生量 (推計・暫定) 約60～100万トン

※現時点までで把握できたデータを用いて、  
令和8年8月時点で算出した推計値である。  
(暫定値であり、今後変動がありうる。)

